

## 習志野市新 ALT を紹介します

### 武術とジャパン・ロック。愛の熱量がハンパない

2023年8月、米国アラバマ州から、2名の新ALT（外国語指導助手）がやって来ました。ダンカン・マククレリー（Duncan McCrary）さんとヘイデン・ブルーワー（Hadyn Brewer）さん。お二人ともアラバマ大学で日本語を専攻。ダンカンさんは日本の武術、ヘイデンさんは日本のロックの大愛好家で、その情熱と造詣の深さは並みの日本人以上のようです。

インタビュー：佐藤洋子（広報部会）

#### ダンカン・マククレリーさん

「2022年まで4年間、習志野市でALTをしていました。習志野市の最長ALTだそうです(笑)。1年ぶりの再来日ですが、また来るなら習志野と決めていました」

「大学で日本語を専攻したのは、日本文化に興味をもっていたからです。子どものころ、父がいつもジブリの映画を見せてくれました。高校からは日本の武術も始めました」

「私が教えを乞うているのは、『武神館』（ぶじんかん）という流派です。簡単にいうと、

いろいろな武術をミックスしており、道具も使います。たとえば、鎖分銅というのを使いますが、これは武器ではなく、本来何か仕事をするための道具です。そういうところが興味深いです」

「流山にある道場へ週2回通っていて、黒帯です。趣味と言うにはちょっとハードで、修行ですね。趣味は音楽。ギターを弾いたり、歌ったり。好きなのは、う～ん、悲しい音楽です(笑)」

#### ヘイデン・ブルーワーさん

「大学での専攻は、パブリックリレーションと日本語です。日本語との関わりは、中学の頃日本の音楽を聞き始めたあたりから。それで日本語にも興味を持って、日本の音楽をすごくたくさん聞いて日本語に興味を持ち、高校時代は歌詞などを通して独学していました」

「好きなのは『ベイビーメタル』『BUCK-TICK』『LUNA SEA』。一番夢中になったのは『X JAPAN』です。休日は、家で音楽を聞いたり、いろいろなコンサートに行ったり。レコード

に興味を持っていて、アメリカで手に入れるのが難しい日本のバンドのレコードをたくさん集めることが夢です」



ヘイデンさん(左)  
とダンカンさん(右)

ダンカンさんは習志野市立第六中学校、ヘイデンさんは習志野市立第四中学校に勤務しています(11月現在)。NIAの月曜チャット(英語でのおしゃべり会)でお二人が待っています。